

乙亥年三月

當使管內行政警察規則之

儀ニ付御届

本年第二十九号

及二百六號
以

以府縣行政警察案規

則御史達相成候二付右御史達二基キ當使
行政警察規則別冊之通相定施行致候
条書面相格此段御史届仕候也

明治八年十二月二十八日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實義殿

行政警察規則之

以府縣行政警察規

二付右御達ニ基キ當使

列丹之通相定施行致候

段御届仕候也

十二月二十八日

開拓長官黒田清隆

實義殿

開拓使

長友殿に抄印ハせしむるの事
石より
明治六年十二月廿七

開拓使行政警察規則

第一章 警察職務之事

第一條 行政警察ノ趣意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ

第二條 本廳及各支廳ノ長官其事務ヲ提掌シ警部長警部ヲシテ之ヲ專掌セシメ便宜各所出張シ

巡邏查察セシム

第三條 其職務ヲ大別シテ四件トス

第一 人民ノ妨害ヲ防護スル事

第二 健康ヲ看護スル事

第三 放蕩滯逸ヲ制止スル事

第四 國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中

開拓使行政警察規則

第一章

警察職務之事

第一條 行政警察ノ趣意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ

第二條 本廳及各支廳ノ長官共事務ヲ提

シメ便一 巡査ノシテ各部

ニ分派シ巡邏査察セシム

第三條 其職務ヲ大別シテ四件トス

第一 人民ノ妨害ヲ防護スル事

第二 健康ヲ看護スル事

第三 放蕩淫逸ヲ制止スル事

第四 國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中

ニ探索警防スル事

第四條 行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背ク者アル片其犯人ヲ探索逮捕スルハ司法警察ノ職務トス之ヲ行政警察ノ官ニ於テ行フ片ハ檢事章程及司法警察規則ニ照スヘシ

第五條 警察官吏ハ公同一般ノ裨益ヲ計

リ一家隱微ノ小惡ヲ發ク可ラス且一己ノ功ヲ貪リ警察一般ノ目的ヲ愆ル可ラス

第二章

警部勤務ノ事

第一條 各屯所ニ派出セル警部ハ時々警邏掛出張所ニ參會シ事務ヲ商議シ處分異同ナキヲ要スヘシ

第二條 凡布告布達ハ其旨趣ヲ巡查ニ教示シ誤解スルモノナキヲ要スヘシ

第三條 時々区内ヲ巡視シ其景況並ニ巡查ノ勤怠正否ヲ察スヘシ区内ノ人員戶數職業等ハ成丈詳知スルヲ要スヘシ

第四條 区内ノ事故ハ月報ヲ以テ長官ニ報告スヘシ若シ非常急緊ノ事件アレハ速

ニ報知スヘシ

開拓使

第五條

凡警察ノ事ニ付テハ直ニ他府縣ノ警察官ニ報知若クハ照會スルヲ得

第六條

達又ハ訊問等ノ事アルニ付テハ勅奏官及華族並有位ノ者ハ家令家扶執事ヲ呼出スヘシ判任官以下士族平民ハ直ニ本人ヲ呼出スヲ得ヘシ

第七條

違警犯人ハ其犯狀ヲ按シ違警條目ニヨリ處断シテ後長官ニ具申シ其疑按アルモノハ長官ノ指揮ヲ受テ處分スヘシ

第三章

巡查勤方之事

第一條 第一章第三條ヲ以テ職務ノ大目のトスヘキ事

第二條

持區内ノ居民并道路行人ヨリ困難出来シテ救護ヲ乞フ片ハ何時ニテモ乞ニ應シ或ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次

第力ヲ盡シテ防護スヘシ

但街路其外ニテ人命ニ係ル危難有之
節ハ瞬速ニ救護シ最寄ノ醫ヲ頼ミ治
療ノ手續懇切ニ取計フヘシ

第三條 老幼廢疾婦人外國人等ハ就中注
意シテ保護スヘシ

第四條 持区内ノ大小往來筋及市街村落
ノ位置區長戸長ノ宅等盡ク詳知スヘシ
第五條 持区内ノ戸口男女老幼及其職業
平生ノ人トナリニ至迄ヲ注意シ若シ無
産體ノ者集合スルカ又ハ怪シキ者ト認
ルキハ常々注目シテ其舉動ヲ察スヘシ

第六條 持区内ヘ他ヨリ移リ來ル者アラ

ハ前條ニ隨テ之ヲ探知スヘシ

但右等ノ事ニ付權威ヲ以テ其人ヲ呼
出ス等ノ儀ハ決シテ有之間敷勉メテ
當人ノ覺知セサル様隱密ニ探復スル
ヲ以テ警察ノ本意トス若シ己ムヲ得
サルトアルトキハ自ラ行テ尋問スヘ
シ

第七條 布告布達等總テ新令ノ出ルニ付
人心ノ信否ヲ考察シテ警部ヘ報知ス
ヘシ

第八條 巡邏中職務ニ関スル大小ノ事故
ハ逐一手帖ニ記シ警部ヘ報知スヘシ

第九條 非番タルモ合圖アルカ又ハ臨時

呼出ヲ受レハ早速其場ニ駆付ヘク平常
其心掛アルヲ要ス

第十條 往來筋ノ妨害トナルヘキ物ヲ見
ルキハ速ニ取除カシムヘシ

第十一條 道路ノ荒蕪溝渠ノ淤塞及不潔物
アレハ之ヲ戸長ニ告ケ掃除ノ手續ヲナ
スヘシ

第十二條 官舎橋梁道路其他公有之建造物
破損スルキハ 警部ニ報知スヘシ

第十三條 行人ニ道路或ハ其他ノ事ヲ尋問
セラル、キハ丁寧ニ教示スヘシ

第十四條 稚兒道ニ迷フアラハ之ヲ保護シ
其居所不分明ナル者ハ之ヲ其地ノ戸長

ニ預ケ之ヲ 警部ニ報知スヘシ若シ其
居所分明ニシテ其持区内ナラハ直ニ之
ヲ送致シ他ノ區ナラハ其地ノ區戸長ニ
掛合送致ノ手續ヲナスヘシ

第十五條 芝居其他群集ノ所ニハ出張シ亂
雜ヲ防制スヘシ

第十六條 誤テ放セシ牛馬アレハ之ヲ便宜
ノ所ニ留メ置其主分明ナル者ハ之ヲ附
與シ然ラサレハ 警部ノ指圖ヲ受ヘシ

第十七條 路上酒ニ酔ヒ失心スル者ハ之ヲ
注意シ又ハ最寄人民ニ从抱セシメ其暴
動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡ス

第十八條 路上狂癲人アレハ穩ニ之ヲ从抱

シ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ヘ
引渡スヘシ

第十九條 路上ニ狂犬アレハ之ヲ打殺シ戸
長ニ告ケ之ヲ取棄ル手續ヲナスヘシ

第二十條 道路河渠ニ死屍アルトキハ其摸
様ヲ檢シ警部ヘ報知シ指揮ヲ受クヘ
シ

第二十一條 獸畜ノ死骸アルトキハ速ニ戸長
ニ告ケ之ヲ取除ク手續ヲナスヘシ

第二十二條 鳥獸魚類其他飲食物ヲ販賣スル
店ニ賣造腐敗ノ品之アルヤヲ常々檢査
スヘシ

第二十三條 人家夜間戸締油斷ノ者アレハ速

ニ之ヲ其主ニ知スヘシ

第二十四條 怪キ者ヲ見認ル片ハ取糾シテ様
子ニ依リ持区内出張所ニ連行或ハ警
部ニ密報シ差圖ヲ受クヘシ倉卒ノ取計
アル可ラス

第二十五條 失火ノ節ハ巡査失火ノ合圖ヲナ
シ一般ニ知ラシム且燒失ニ罹ル家ハ其
家人ヲモ助ケ消防ノ事モ勤ムヘシ消防
人已ニ集ルニ至レハ勉メテ亂雜及ヒ竊
盜ヲ防ク事ニ注意スヘシ

第二十六條 同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ
次ニ書類金貨等ヲ出スヘシ又官廳其他
區戸長等ノ宅ハ文書第一ニ取出スヘシ

第四章

巡查心得ノ事

第一條 専ラ行儀作法ヲ正シクシ威權力
間敷儀之ナクシテ區民ノ侮慢ヲ受サル
様可心掛事

第二條 法度規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ
遵奉スヘシ決シテ職外ノ事ヲ議スヘカ
ラサル事

第三條 同勤中ハ一心全體ト心得常々謙
遜温順ヲ旨トス忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ
職務ニ怠ラサル様互ニ獎勵スヘキ事

第四條 節儉ヲ守リ分限不相應ノ儀致間
敷事

第五條 職務上ニ付上官ニ申立ノ事ハ總

テ實直ヲ旨トシ愛憎偏倚ノ儀決シテ有
之間敷尤後日ニ至リ前言ヲ翻改スル儀
無之様可心掛事

第六條 巡邏中道路行人英ニ營業ノ者ノ
妨ニ不相成様可心掛事

第七條 市中往來ノ者ヲ取扱ニハ柔和ヲ
旨トシ辨ヘナキ者ハ殊更穩ニ取扱ヒ決
シテ凌辱ヲ加ヘ手荒キ處置致間敷事

第八條 取調ノ爲メ人家ニ至ル節ハ接對
筋統テ懇篤ニ可致但シ公私ノ分ヲ守リ
狎々敷儀決シテ有之間敷事

第九條 巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿
論徒ラニ市中ヲ詠ノ職務ヲ怠ル間敷事

第十條 持区内ニテ金譚等頼入レ或ハ物
買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ有之間敷
事

第十一條 出勤中醉態ヲ露ハシ又ハ婦女ハ
對シ戯ケ間儀等決シテ有之間敷事

第十二條 機密ノ筋ハ勿論職務ニ係タル事
ハ統テ他言致間敷事

第十三條 公事出入等ニハ一切關係致間敷
若シ強テ相頼候者アラハ警部ハ具申
スヘキ事

第十四條 官ヨリ相渡サレタル得物ノ外兵
器ヲ携ル儀ハ不相成且相渡サレタル品
ハ大切ニ取扱フヘキ事

第十五條 得物ハ自身ヲ擁護スル具ト心得
猥リニ人ヲ打擲致間敷候勿論兇暴人ア
リ手ニ餘リ不得止節ハ格別ノ事

第十六條 巡邏中傍人ノ嘲哂スルヲアリト
虽モ必ス耻辱ト思フヘカラス能ク忍耐
シテ相當ノ處置ヲナシ決シテ憤怒ノ色
ヲ顯シ争鬭ケ間敷儀致間敷事

第十七條 何様ノ事アリトモ職務上ニ付人
民ヨリ謝物等ノ金銀物品ヲ受ルヲアル
ヘカラサル事

第十八條 巡邏中ハ必ス役服ヲ着用シ能ク
容姿ヲ正フシ他人ト同行シテ雜譚スヘ
カラサル事

但三當分役服、義ハ時宜ニ寄リ無印

ノ服ヲ着スルヲモアルヘシ

第十九條 每朝衣服冠其他器械ヲ檢査ス常

ニ見苦シカラサル様注意スヘキ事

第二十條 屯所ハ毎朝清潔ニ掃除スル事

第二條 巡查新募ニ應スル者滿三ヶ年ヲ

期限トスヘキ事

支給

警察官吏及邏卒改稱用支給物品
等之儀上申

今般府縣警察官吏及邏卒称呼替等之儀即
達相成候ニ付當使警察官使邏卒之称呼及
支給物品等更ニ改定仕度在北海道之儀ハ
絶海涯寒之地ニテ既ニ判任以下月給増與
之儀モ有之候ニ付支給物品等モ府縣ノ例
ニ比シ難ク依之別冊之通相定申茲此段上
申仕候也

明治八年六月

關西使